

2025年日本国際博覧会 会場のシンボル

「大屋根リング」がギネス世界記録™に認定

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の会場のシンボルである「大屋根リング」が、世界最大の木造建築物として、2025年3月4日にギネス世界記録に認定されました。

大屋根リングは、会場のデザインコンセプト「多様でありながら、ひとつ」を体現した建築であり、私たち東畑・梓設計共同企業体は、基本設計ならびに意図伝達業務を担当しました。

【ギネス世界記録 認定概要】

- ・ 記録名 : 最大の木造建築物
- ・ 正式英語記録名 : The largest wooden architectural structure
- ・ 記録対象建築物 : 大屋根リング（大阪市此花区夢洲）
- ・ 認定面積 : 61,035.55 m²



【建築概要】

- ・ 建築面積（水平投影面積）：61,035.55 m²
- ・ 内径：約 615m 外径：約 675m
- ・ 全周：約 2km
- ・ 高さ：約 12m（外側約 20m）
- ・ 幅：約 30m
- ・ 構造規模：木造 2 階建て
- ・ 使用木材：（国産）スギ、ヒノキ（外国産）オウシュウアカマツ
- ・ 基本設計：藤本壮介 + 東畑建築事務所 + 梓設計

【設計概要】

地上部の「グラウンドウォーク」は、万博会場の主動線として円滑な交通動線かつ雨天や日差し等を有効に遮る快適な滞留空間として、屋上部の「スカイウォーク」は、海と空に囲まれた万博会場全体を見渡すことができる空間として計画し、屋根上を巡るデッキやスロープにより、瀬戸内海の豊かな風景や夕日を浴びた光景を、四季折々のランドスケープとともに様々な視点場から体感できる設計としました。またこの大屋根の架構を、日本の木文化を表象する柱・梁や貫接合を現代の木造技術で進化させた「つくりやすく、リユースしやすい」架構形式により実現することで、都市木造化の促進や循環型社会の貢献に繋がる建築を日本から世界に発信することを目指しています。



パース提供：2025 年日本国際博覧会協会